

『チ。—地球の運動について—』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査

■アンケートの詳細

調査目的	『チ。—地球の運動について—』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	『チ。—地球の運動について—』を読んだことのある20代～50代の男女13名
調査期間	2024年12月10日～2024年12月15日 2026年1月14日～2026年1月15日 2026年5月7日～2026年5月8日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス
データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/chi/

■アンケート項目

Q1: 年代と性別を教えてください。

Q2: 『チ。—地球の運動について—』を実際に読んだ評価を5段階で教えてください。

Q3: 『チ。—地球の運動について—』を実際に読んだ感想を教えてください。

Q1: 年代と性別を教えてください。

20代男性	2人
20代女性	3人
30代男性	4人
30代女性	1人
40代男性	1人
40代女性	1人
50代男性	1人
50代女性	0人

Q2:『チ。—地球の運動について—』を実際に読んだ評価を5段階で教えてください。

～～作品の5段階評価について～～

- ★★★★★(とても面白かった):絵・物語・キャラに魅力を感じた。続きがあればぜひ読みたい
- ★★★★(面白かった):漫画の内容で面白かったり、満足できる要素が一つでもあった。
- ★★★(普通):面白いとも面白くないとも言えない。
- ★★(面白くなかった):あまり好きではない描写や要素があった。
- ★(全く面白くなかった):読んでいて不快・退屈だった。

★★★★★	7人
★★★★	6人
★★★	0人
★★	0人
★	0人

Q3:『チ。—地球の運動について—』を実際に読んだ感想を教えてください。

アニメ版にどハマリして居ても立っても居られず原作にまで手を出してしまいました。ストーリー構成が非常に面白くて、決まった主人公というものはなく年代ごとに物語の中心に立つ人物が変わるという作りがとても斬新だなと感じました。主人公がどんどんと死んでいくけど、それをまた後の主人公が引き継いで...そうやって天動説を倒していくカタルシスは中々他の漫画では味わえないモノだと思います。

ラファウは弱冠12歳でありながら、大学に進学する程頭脳明晰である事に驚きました。義父に称賛され、照れている時のラファウは子供らしくて可愛かったけど、ツラツラと難しい言葉を並べながら説明する様子には驚きました。人当たりの良い言葉を並べる裏で、実は他人を舐め腐っている所に驚いたけど、義父の言うことには絶対な所が何だか恐怖を感じました。

周りに勧められて何となく読み始めたのがこの作品です。元々怖い系やグロイ系が好きだったので、そこに対する興奮も勿論ですが何より漫画の文字数がとても多く、1冊読むのに時間も体力も精神力も削られるような作品です。それくらい人物に同情してはあっさり殺されたり、詰め込まれたキャラクターを好きになっていきます。宗教や教えと呼ばれるものは今もあります。なので、誰も悪く無いんだと言う気持ちが出てきてしまい、どんどん作品に引き込まれていきます。

これは天動説が信じられていた時代の物語です。当時のことは世界史で軽くしか知りませんが、天動説を否定することは神を侮辱する行為と等しいということでそれはまあ残酷な拷問や時には普通に人が焼き殺されます。そんな中でひっそりと、しかし確実に地動説の意志は受け継がれていく過程が描かれます。命を投げうってでも、自分でなくとも未来を生きる誰かが証明して欲しいというその選択をした天才たちに心を打たれる人も多いと思いますのでぜひ皆さんに、特に宇宙に興味がある人ははまりやすいと思いますのでおすすめしたい作品です。

私は大学と大学院で6年間物理学、特に宇宙物理学を学びました。そこで感じた宇宙の壮大さ、美しさを見事漫画にしてくれた作品です。物理学に関して世間の反応は「なんか難しそう」「好きな人はちょっと気持ち悪い」のようなあまり良いものではありません。しかし一度深く学んでみればわかります。この世界がいかに美しくシンプルな設計図で描かれているかが。この作品はその中でも最もわかりやすい象徴である天動説から地動説への移行についてを取り上げています。天動説という、人間が世界の中でも特別な存在であることが前提とされた考え方とは

でも宗教的、自己中心的な考え方であることは哲学でも物理学でも理解できます。この世界は何に対しても平等で、人間はたまたま生じた存在で、この壮大な世界の1つでしかないというナチュラルでシンプルな考え方を元にした地動説に作中の登場人物が気づいてゆき、心が熱くなっている描写はこちらの心も本当に熱くなりました。物理学を少しでも学んだことがある方は絶対に読んでみてほしいです。本当に読んでほしいです。

孤児として生まれ、合理的に生きていくほうが人生は上手く行くと考えたラファウは、12歳にして飛び級で大学に入学することになるが、頼まれて引き取りに行った謎の男性に天文学への興味を捨てられないことを見抜かれ、彼の仮定する説にどんどんハマっていくところに惹きつけられました。神学の道に進んだほうが人生は有利だとわかりつつも、男性の唱える説に圧倒的な興味を抱いてしまったラファウの、美学や信念との向き合い方に悩みもがく姿にドキリとしました。

今アニメも絶賛放映中なのですがこの作品を初めて知ったのはテレビで芸人さんがお勧めしていたことがきっかけでした。なんだかわかりませんがとにかく内容に興味湧き読み始めたら色々なことがわかって本当に面白かったです。地動説のことや宇宙の習わしなどいろんな観点から物語が進んでいくのでかなり壮大だと感じましたね。

このタイトルは本当にインパクトがありますね。一文字で凄く興味が湧いたことを今でも覚えています。チというタイトルは時計が動く音や地球のチなどいろんな意味が含まれているような気がして凄く好感が湧きますね。あと冒頭に出てくるキャラが主人公かと思いきや、あっさり退場したり展開が読めないところにもかなり惹かれてしまいます。

この作品を読むと、今と違って昔は思想の違いによる弾圧がどれくらい厳しいのかを学ぶことができますと思います。そんな状況の中でも地動説を信じて突き進む人たちの姿に感動し、勇気をもらえるのもこの作品の素晴らしいところだと思っています。拷問シーンはかなりグロテスクですが、この時代の厳しさを見せるためには必要な描写だったと思います。

とても素晴らしいリアリティのある漫画。地動説など歴史の教科書では、簡単に触れて終わるような箇所。それをここまで当時の考え方や価値観、思考なども踏まえた歴史観を描いているところが素晴らしいです。そして、歴史のストーリーが続くので、登場人物も次へのバトンを渡すところも素晴らしい描き方でありストーリー性が素晴らしいです。

間違いなく名作、いや傑作です。とにかく先が読めない、この一言につきます。まず最初の1巻で衝撃を受けて混乱して、それ以降も、誰が主人公なのかわからず混乱。ですが、続きが気になりすぎてどんどん読んでしまうんですね。確かに、難しい時代の話ではあるのですが、全部理解できなくても楽しめます。むしろ、何回も読み返して読むことで理解を深めていくような漫画だと感じました。自分はこの時代のことをあまり知らなかったのも、こういうふうな考え方があったんだと、いろいろ勉強になる部分もありました。

主人公が移り変わって行って、リレーのように想いを繋いでいくのがいいです。歴史の公証とか突っ込みどころはあるようですが、まあフィクションなのでね。ノヴァクの残酷さが本当にヤバい。最後のほうで完全に裏切られるんですが、まあやって来たことの報いでもあるし、虚しさもあるし。憎めない点もありますね。仕事人間の最期というか。

まさかの一文字タイトル。どんな作品なのかと気になっちゃいます。そして内容はというと、歴史好きだと、そうじゃなくても思わず引き込まれて行くことでしょう。こうやって人々はさまざまな説を考え、それが認められたり迫害されたりを繰り返していったんですね。歴史を生々の状態で楽しむことができる。とにかくおもしろいです。

漫画全巻の部屋

by (株)グリュックス